





# 記念碑 3 開拓之碑

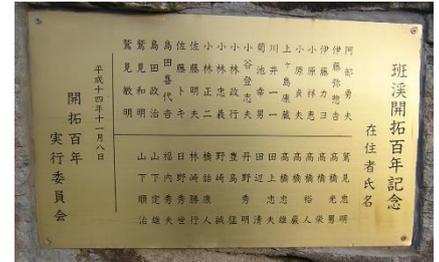
所在地 南部会館

建立年 平成8年11月

大きさ <全長>329 cm <碑高>194 cm

参考 下川町史第1巻 114頁ほか

経緯度 44.275099, 142.623956 (付近)



【正面碑文】  
開拓之碑

【右側面碑文】

平成八年十一月建立

【裏面碑文 一】

明治三十六年五月、岩手県出身高橋芳蔵氏がパンケに入地(上名寄原野二十二線南十五番地)、開墾の鍬が入れられ、爾来多くの人々の苦難を越える努力と七十余年の星霜を経て拓かれ、昭和五十一年四月二戸に至るもその戸主の名を記し、ともに先人の労苦に深謝し、その思いを偲びつつ、深一層の興隆を願ひ建立する。

阿部勇夫 角田春吉  
井田末雄 高橋光男  
伊藤安雄 高橋慶治  
伊藤弥惣吉 高橋まさの  
伊藤重吉 高橋敏雄  
太田繁光 高橋敏雄  
大沼春吉 田上正巖  
小原義夫 田辺清正  
小原たか 田村皓  
小原次夫 根子忠吉  
小原義則 野崎千吉  
川島力太郎 橋詰久康  
菊池サナ 林崎勘一  
菊池ミツ 林崎幸  
小林繁春 林崎政幸  
小林忠義 日野政巖  
小谷登志夫 松田運吉  
佐藤春夫 松本孝平  
佐藤良太郎 溝口善夫  
島田喜代吉 山下照雄  
島田清栄 山下順登

碑原石寄贈 小原義則

基礎工事 松本建設株式会社  
施工代表 取締役 松本秀世  
施工工事に当り多大な尽力を賜り竣工完成

パンケ開拓七十五周年記念事業 実行委員会

【裏面碑文 二】

班溪開拓百年記念  
在住者氏名

阿部勇夫 鷺見忠明  
伊藤安雄 高橋光男  
伊藤弥惣吉 高橋栄  
伊藤力三 高橋裕人  
小原祥恵 高橋裕人  
小原貞夫 高橋忠巖  
上ヶ島康蔵 高橋忠雄  
川井一一 田上忠夫  
菊池幸男 田辺清  
小谷登志夫 丹野秀明  
小林政行 豊島猛  
小林忠義 野崎誠  
小林正二 橋詰康人  
佐藤明夫 林崎勝行  
佐藤トキ 日野秀世  
島田喜代吉 福内秀夫  
島田政治 山下定雄  
鷺見和明 山下順治  
鷺見敏明

平成十四年十一月八日

# 記念碑 4 渡道五十周年記念碑

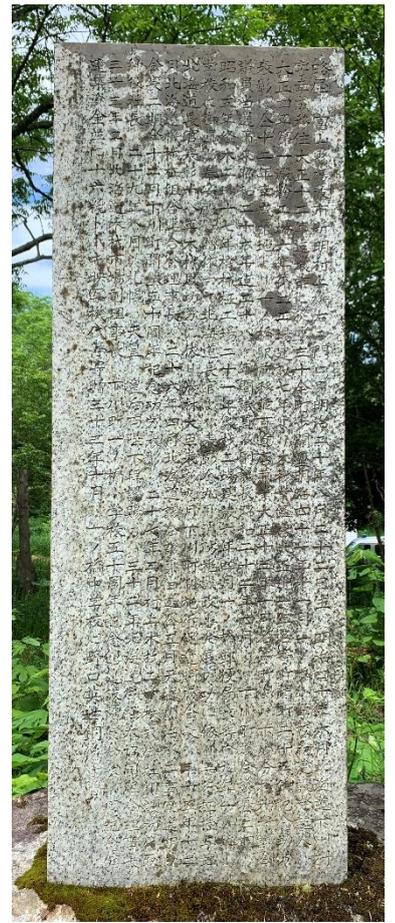
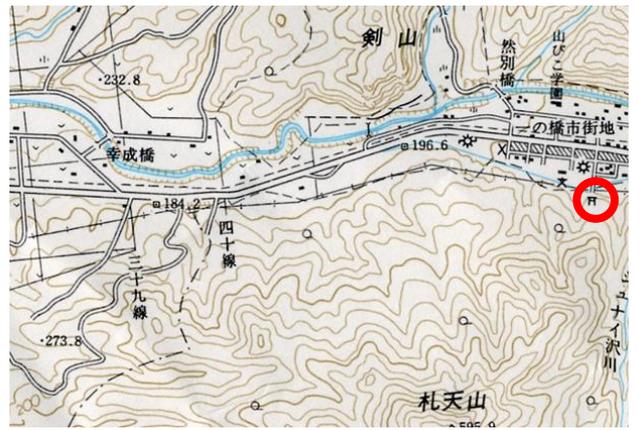
所在地 一の橋神社

建立年 昭和30年10月

大きさ <全長>380 cm <碑高>180 cm

参考 下川町史第1巻 136頁ほか

経緯度 44.316851, 142.769238 (付近)



【正面碑文】

渡道 五十周年記念碑

石橋湛山書

【右側面碑文】

昭和三十三年十月

建立者

村上貞次郎  
村上貞次郎書

【裏面碑文】

略歴 富山縣砺波市新明村上磯右工門四男明治二十年八月二十二日生 明治四十年六月北海道下川村字幸成移住大正十二年迄農業に従事三十余町歩開墾明治四十一年十一月一ノ橋小学校初建設発起人  
大正四年第一澱粉工場六年第二工場建設七年より木材業経営大正十一年名寄町開町二十五年記念功勞表彰 全十二年幸成農地より一ノ橋駅前移転百貨店兼業大正十三年一月名寄町より下川分村初村議會議員当選爾來昭和二十六年迄二十八ヶ年間議員及副議長昭和二十二年四月より下川町議會議長二期 昭和五年經木工場十七年機械工場二十一年製材工場建設六年四月一ノ橋郵便局長拜命九年一ノ橋小学校に御眞影奉安殿寄贈依って北海道長官より表彰全九月消防施設改善発展の功に依り善行証授与竝北海道長官表彰十八年木材界功勞に依り農林大臣表彰九月下川町制施行促進期成会長 二十五年十二月北海道機械組連合會理事長 二十六年四月北海道議會議員當選全五月天塩川治水工事促進期成會長二期全十二月下川町開基五十周年記念功勞表彰 二十七年二月村上木材工業株式會社創設初代取締役社長 二十九年八月於札幌 天皇皇后兩陛下拜謁賜る 三十二年北海道厚經木協同組合理事長 三十三年二月北海道木材市場副理事長 下川町一ノ橋小学校五十周年記念館建設協賛會長 同紀念館建築資金竝に十六耗トキ映写機代等寄贈三十三年十月 一ノ橋中学校に野口英世銅像寄贈

## 記念碑 5 健土健牛

名称 健土健牛

所在地 桜ヶ丘公園

建立年 昭和61年6月19日

大きさ <全長>260 cm <碑高>165 cm

参考 下川町史第3巻 563頁

経緯度 44.294381, 142.627100 (付近)



【正面碑文】

出荷乳量一万トン達成記念

健土健牛

下川町長 原田四郎 書

【裏面碑文】

酪農家一同

昭和61年6月19日建立



# 記念碑 6 上名寄水利組合記念碑

所在地 上名寄 19 線

建立年 昭和3年 11 月 25 日

大きさ <全長>390 cm <碑高>236 cm

参 考 下川町史第 1 卷 756 頁ほか

経緯度 44.306660, 142.610942 (付近)



上名寄水利組合記念碑  
 夫我国者建国以来以農立国而在農業中水田之經營為最有  
 利也本村先覚者亦有見干茲故藤原次郎左衛門故市村甚助  
 故林甚之助諸氏奔走干設立明治四十一年三月得官允可創  
 立上名寄水利組合求水源於名寄川鑿溝然隨拓田增加漸感  
 狭小大正十三年四月第一回拡張大正十五年十二月更為第  
 二回拡張昭和二年五月告竣本線延長三千五十間工費總額  
 三万八千円灌溉面積實達二百八十町步矣今也正穰稻相運  
 頗致殷阜於是有意謀本秋舉行曠古大典記念事業樹碑刻文  
 永伝千後昆併欲留先功勞者名來命文於予固辭不聽仍略叙  
 梗概如是  
 題字北海道庁長官沢田牛磨  
 昭和三年十一月二十五日  
 名寄中学校 教員 金坂市井治武 書撰

【正面碑文】  
 國本



## 記念碑 7 上名寄開拓五十年記念碑

所在地 上名寄 16 線神社

建立年 昭和 25 年 6 月 14 日

大きさ <全長>255 cm <碑高>146 cm

参 考 下川町史第 1 巻 392 頁ほか

経緯度 44.307369, 142.583414 (付近)



【正面碑文】

上名寄開拓五十年記念碑  
下川町長末武次郎吉書

【裏面碑文】

昭和二十五年六月十四日建之



上名寄地区の入植は、1901年（明治34年）岐阜県郡上郡高鷲村からの団体入植が始まりです。1950年（昭和25年）はその入植から50年目にあたります。

下川町全体での開基50周年記念式典や記念行事は、1951年（昭和26年）に満50周年として行われました。

## 記念碑 8 上名寄小学校閉校記念碑

所在地 下川町農村活性化センター「おうる」

建立年 平成 14 年 3 月 末 日

大きさ <全長>201 cm <碑高>84 cm

参 考 下川町史第 5 卷 586 頁ほか

経緯度 44.311304, 142.578857 (付近)



【正面碑文】

学びの郷

上名寄小学校閉校記念

平成 14 年 3 月 末 日



# 記念碑 9 下川町立一の橋小学校閉校記念碑

所在地 一の橋小学校

建立年 平成 14 年 8 月

大きさ <全長> 126 cm <碑高> 100 cm

参 考 下川町史第 5 卷 587 頁ほか

経緯度 44.317785, 142.766933 (付近)



〔正面碑文〕

下川町立一の橋小学校  
閉校記念碑

〔右側面碑文〕

平成十四年八月建立

〔裏面碑文〕

下川町立一の橋小学校  
閉校記念事業協賛会役員

会長 羽鳥一彦  
副会長 飯田勉  
顧問 佐々木剛  
岩田一重  
筒淵 昭  
伊藤吉松  
森 祥一  
平 義信  
伊藤鈴男  
庭瀬和美  
山川久四郎

監査 松岡孝幸  
事務局 西澤建治  
大橋毅士  
藤木 豊  
堀北忠克  
今田正巳  
殿村亜希子  
松岡勝徳  
中澤利紀  
水口吉宏  
加藤良博  
浅村啓子  
春日統子  
佐藤武司  
佐藤 功

惜別会部 高橋裕明  
西澤鈴以子  
白石一恵  
村上香利  
本間まき子  
羽鳥 勝  
村上貞則  
本間一喜  
上梨恵子  
渡部哲男  
野村貞則  
本間一喜  
佐藤 功

事業部 真鍋康男  
堀籠 晃  
野村麻子  
佐藤政弘  
藤原恵美子  
中澤ゆかり  
濁沼英正  
吉田伸男  
野村麻子  
佐藤 功  
村上貞夫  
伊藤 隆  
松島数馬  
堀北修司  
湯川熊蔵  
小峰博之  
松岡宏幸  
大瀬 登  
平由紀子  
伊藤弘子  
松島数馬  
伊藤 隆  
加藤幸子  
小林禮子

野村シズ子  
伊藤 隆  
亀山 豊  
今田明美  
大崎敏士  
松岡宏幸  
小林禮子

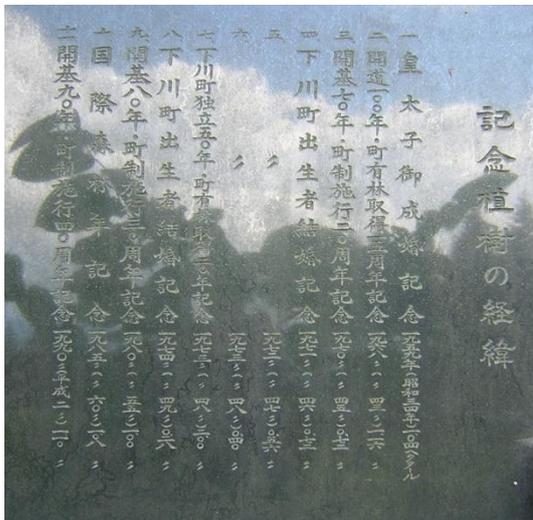
# 記念碑 10 開基 90 年町制施行 40 周年記念碑

所在地 溪和 2000 年の森  
 建立年 平成 2 年 5 月 30 日  
 大きさ <全長>203 cm <碑高>86 cm  
 参考 下川町史第 3 巻 323 頁ほか  
 経緯度 44.287599,142.683669 (付近)



【正面上段碑文】  
 梅経寒発清香 昭和乙未元旦  
 下川町長宮地誠次 (花押)

【正面下段碑文】  
 記念碑碑文  
 この碑文は「梅は寒を経  
 て清香を發する」と読み  
 下川町長第二代目宮地誠次  
 氏が昭和三十年元旦に揮毫  
 されました。  
 この町有林は当時の宮地町長と  
 金子喜代治議長の熱意と奔走  
 により昭和二十八年に国から買  
 受けたもので両氏の偉業と功績  
 に感謝し開基九十年・町制施  
 行四十周年記念植樹にあたり  
 この碑を建立します。  
 平成二年五月三十日  
 下川町長原田四郎



【裏面碑文】  
 記念植樹の経緯  
 一 皇太子御成婚記念 一九五九年 (昭和三四年)  
 一、〇四ヘクタール  
 二 開道一〇〇年・町有林取得一五周年記念  
 一九六八〇〇年 (四三〇〇) 一、一六〇〇  
 三 開基七〇年・町制施行二〇周年記念  
 一九七〇〇〇 (四五〇〇) 〇、七二〇〇  
 四 下川町出生者結婚記念 一九七一〇〇 (四六〇〇)  
 〇、七二〇〇  
 五 〇、一九七二〇〇 (四七〇〇) 〇、五六〇〇  
 〇、一九七三〇〇 (四八〇〇) 〇、四〇〇〇  
 六 下川町独立五〇年・町有林取得二〇周年記念  
 一九七三〇〇 (四八〇〇) 二、〇〇〇〇  
 七 下川町出生者結婚記念 一九七四〇〇 (四九〇〇)  
 〇、二八〇〇  
 八 開基八〇年・町制施行三〇周年記念  
 一九八〇〇〇 (五五〇〇) 一、〇〇〇〇  
 九 国際森林年記念 一九八五〇〇 (六〇〇〇) 一、〇八〇〇  
 一〇 開基九〇年・町制施行四〇周年記念  
 一九九〇〇〇 (平成二〇〇〇) 一、一〇〇〇〇

# 記念碑 11 森は光り輝く (町有林経営 50 年循環型林業経営確立記念碑)

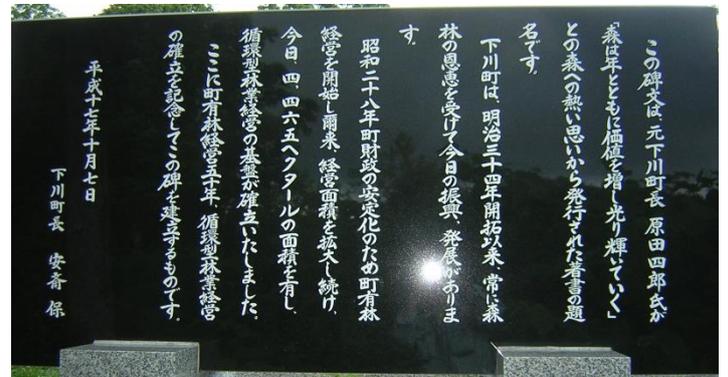
所在地 21 世紀の森

建立年 平成 17 年 10 月 7 日

大きさ <全長>220 cm <碑高>100 cm

参 考 下川町史第 5 巻 243 頁ほか

経緯度 44.330117, 142.685308 (付近)



【正面碑文】

森は光り輝く

平成 17 年 10 月 北海道下川町

平成十七年十月七日

下川町長 安斎 保

【裏面碑文】

この碑文は、元下川町長原田四郎氏が「森は年とともに価値を増し光り輝いていく」との森への熱い思いから発行された著書の題名です。

下川町は、明治三十四年開拓以来、常に森林の恩恵を受けて今日の振興、発展があります。

昭和二十八年町財政の安定化のため町有林経営を開始し爾来、経営面積を拡大し続け、今日、四、四六五ヘクタールの面積を有し、循環型林業経営の基礎が確立いたしました。ここに町有林経営五十年、循環型林業経営の確立を記念してこの碑を建立するものです。

## 記念碑 12 樹霊碑 (開基 70 年町制施行 20 年記念碑)

所在地 溪和森林公園

建立年 昭和 45 年 9 月 22 日

大きさ <全長>205 cm <碑高>80 cm

参 考 下川町史第 2 巻 160 頁ほか

経緯度 44.291242, 142.663556 (付近)



### 【正面碑文】

樹霊碑

下川町長 川原満 書



### 【台座碑文】

わが町開基 70 年 蒼蒼たる森林を伐り  
拓きその受けたる恩恵実に偉大なり

ここに開道 100 年 町制施行 20 年  
の意義ある年を記念して北海道の大アカ  
エゾ松の植栽を行ない限りなき成長を天  
に求むる人工の樹海に輝く楽土の未来を  
託せん 長年伐採されし樹々の霊に感  
謝しこの碑を建立す

1970. 9. 22 下川町

# 記念碑 13 大火記念碑

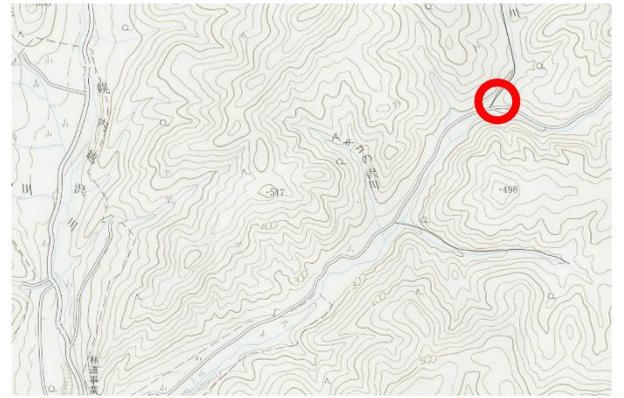
所在地 奥サンル国有林内

建立年 昭和 44 年 6 月 25 日

大きさ <全長>170 cm <碑高>80 cm

参考 下川町史第 2 巻 229 頁ほか

経緯度 44.439059, 142.733519 (付近)



【正面碑文】  
大火記念碑

発生日時 昭和 43 年 6 月 25 日 11 時 40 分  
 被害面積 国有林 548.69 ヘクタール  
 道有林 351.00 ヘクタール  
 被害立木 国有林 4,808 立方メートル  
 道有林 21,558 立方メートル  
 鎮火 昭和 43 年 6 月 29 日 17 時  
 出動延人員 7,030 名  
 緑の林野育成を祈念し茲に此の碑を建立す  
 昭和 44 年 6 月 25 日



【裏面碑文】

下川林産協同組合  
 理事長 井上 隆夫  
 副理事長 天谷定次郎  
 理事 木口 芳郎  
 理事 戸栗 力  
 理事 木村 政吉  
 理事 山本 賢治  
 下川営林署長 中原 勉  
 下川町長 川原 満

昭和四十三年六月二十五日此の地に山火発生し  
 下川全町民、隣接市町村関係機関、自衛隊、旭川営林局、管内各営林署 延七千人余の必死の消火活動にもかかわらず五日間にわたる延焼、五百五十haを消失、鎮火す此の跡地に対し直ちに造林に全力を傾注、昭和四十三年秋、四十四年春をもって植栽を完了した  
 ここに山火による荒廢の惨状と困難な消火活動を思い起し再び出火せざるを肝に銘じ植栽された樹木の健やかならん事を将来に期し、この災害  
 についてこの概況を記してこれを建つ。  
 昭和四十四年五月  
 下川営林署長 中原 勉

昭和四十三年六月二十五日此の地に山火発生し  
 下川全町民、隣接市町村関係機関、自衛隊、旭川営林局、管内各営林署 延七千人余の必死の消火活動にもかかわらず五日間にわたり延焼、五百五十haを消失鎮火す此の跡地に対し直ちに造林に全力を傾注、昭和四十三年秋、四十四年春をもって植栽を完了した  
 ここに山火による荒廢の惨状と困難な消火活動を思い起し再び出火せざるを肝に銘じ植栽された樹木の健やかならん事を将来に期し、この災害についての概況を記してこれを建つ。  
 昭和四十四年五月  
 下川営林署長 中原 勉

# 記念碑 14 一ノ橋中村神社建立記念碑

所在地 一の橋神社

建立年 大正 13 年 4 月 6 日

大きさ <全長> 176 cm <碑高> 122 cm

参 考 下川町史第 1 卷 1173 頁ほか

経緯度 44.316747, 142.768753 (付近)



が、劣化して判読できず。  
世話人、寄附者名などが彫られている

【正面下段碑文】

一ノ橋中村神社  
建立記念  
大正十三年四月六日

【正面碑文】

先人の  
労苦を偲び  
再生をはたす  
更に後生に  
その心を記す

管理者 羽鳥一彦 妻 勝  
協力者 小田原喜代吉 妻 梅子  
水口吉宏 真鍋康男 小室敏之

平成十一年七月吉日

【看板銘文】



## 記念碑 16 開校小 75 中 25 周年記念碑 (上名寄小中学校)

所在地 下川町農村活性化センター「おうる」

建立年 昭和 52 年 11 月 6 日

大きさ <全長>180 cm <碑高>106 cm

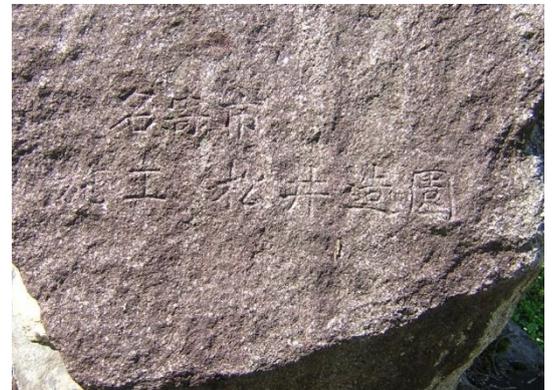
参 考 下川町史第 2 巻 438 頁ほか

経緯度 44.311304, 142.578857 (付近)



【正面碑文】

開校 小 75 中 25 周年記念碑  
昭和 52 年 11 月 6 日



【左側面碑文】

名寄市  
施工松井造園

### 【中学校の統合】町史第 2 巻 416 頁～

本庁における中学校の統合はさきに確定された総合開発計画の基本方針を受けて、二段階のステップを踏んで、現在の町内一中学校になっており、その経過は次のとおりである。

昭和 47 年 珊瑚中学校を下川中学校に統合（珊瑚小学校は下川小学校に統合）

昭和 51 年・54 年 本校舎・屋内体育館等新築工事

昭和 53 年 3 月 上名寄中学校、一の橋中学校、菱光中学校廃校記念式

昭和 53 年 4 月 下川中学校、上名寄中学校、一の橋中学校、菱光中学校を統合して、新設の下川中学校を創設

当時の生徒数(昭和 52) 下川 283 人、上名寄 37 人、一の橋 40 人、菱光 99 人  
(統合時在籍生徒 411 人 12 学級)

# 記念碑 17 満州清和開拓団殉難者供養之碑

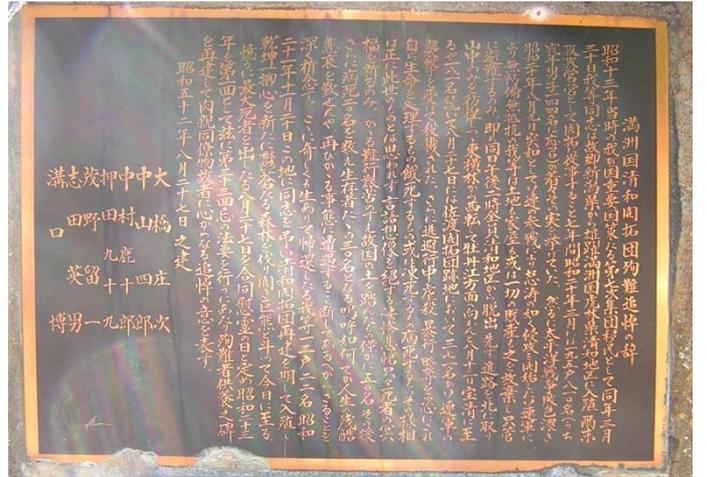
所在地 溪和

建立年 昭和52年8月27日

大きさ <全長>205 cm <碑高>160 cm

参考 下川町史第1巻 1396頁ほか

経緯度 44.264595, 142.678097 (付近)



【正面碑文】

満州清和開拓団  
 殉難者供養之碑  
 下川町長 川原 満 書

【裏面碑文】

昭和十三年当時の我が国重要国策たる第七次集団移民として同年三月三十日我等同志は故郷新潟県から雄躍満州国虎林県清和地区に入植爾來孜孜営管として開拓に従事すること七年間昭和二十年三月には一九五戸八一〇名(うち成年男子一四四名は応召)が着々その実を挙げていた、然るに太平洋戦争敗色濃き昭和二十年八月九日突如としてソ連の参戦により怒濤の如く侵攻を開始したソ連軍により無防備無抵抗の我等は土地も家屋も或は一切の財産も之を放棄し只管に避難するのみ。即ち同日午後二時全員清和地区から脱出先ず進路を北に取り山中のみを彷徨しつゝ、東横林から西転して牡丹江方面へ向わんと八月十三日宝清に至るや一八一名続いて八月二十七日には佐渡開拓団跡地において三七一名がソ連軍の襲撃を受けて殺戮された。さらに逃避行中虐殺暴行略奪を恣にされ自ら生命を処理するもの餓死するもの或は凍死するもの病死するものその様相は正に此世のものとは思われず言語想像を絶する凄惨悲愴只々死者の冥福を祈るのみ。かゝる難行艱苦のすえ故国の土を踏んだもの僅かに五〇名その後さらに病死二〇名を数え生存者たゞの三〇名となる嗚呼如何でか人生の残酷悲哀を歎せんや、再びかゝる事態に遭遇すること断じてあるべからざることを深く祈念す。こゝに奇しくも生ありて帰還したる我等一三戸二二名昭和二十一年十一月二十日この地に同志を弔い清和開拓団再建を期して入植し乾坤一擲心を新たに鬱蒼たる森林を伐り開き巨熊と斗って今日に至る。

大橋 庄次  
 中山 四郎  
 中村 鹿十郎  
 押田 九十九  
 茂野 留一  
 志田 英男  
 溝口 博

憶うに最大死者を出したる八月二十七日を合同慰霊の日と定め昭和二十三年を第一回として茲に第三十三回忌の法要を行うにあたり殉難者供養之碑を再建して肉親同僚物故者に心からなる追悼の意を表す。  
 昭和五十二年八月二十七日之建

# 記念碑 18 衆志成城 (万里長城 2000m達成記念碑)

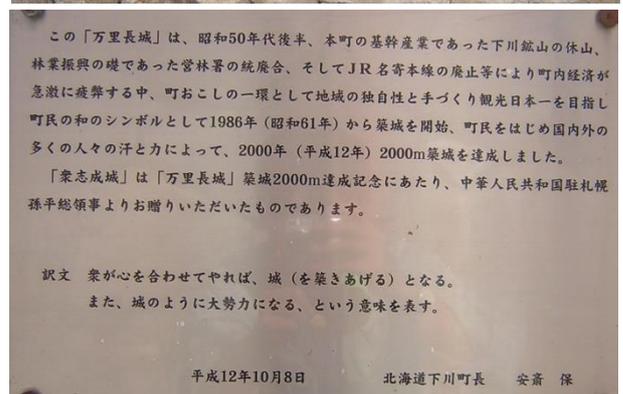
所在地 桜ヶ丘公園

建立年 平成 12 年 10 月 8 日

大きさ <全長>166 cm <碑高>66 cm

参考 下川町史第 4 巻 157 頁ほか

経緯度 44.293749, 142.627216 (付近)



## 【正面碑文】

万里長城  
2000m達成記念  
衆志成城

中華人民共和国駐札幌総領事 孫 平  
北海道下川町町長 安齋 保  
2000年10月8日

## 【裏面碑文】

この「万里長城」は、昭和50年代後半、本町の基幹産業であった下川鉦山の休山、林業振興の礎であった営林署の統廃合、そしてJR名寄本線の廃止等により町内経済が急激に疲弊する中、町おこしの一環として地域の独自性と手づくり観光日本一を目指し町民の和のシンボルとして1986年（昭和61年）から築城を開始、町民をはじめ国内外の多くの人々の汗と力によって、2000年（平成12年）2000m築城を達成しました。

「衆志成城」は「万里長城」築城2000m達成記念にあたり、中華人民共和国駐札幌孫平総領事よりお贈りいただいたものであります。

訳文 衆が心を合わせてやれば、城（を築きあげる）となる。

また、城のように大勢力になる、という意味を表す。

平成12年10月8日 北海道下川町長 安齋 保

# 記念碑 19 鉄道記念碑

所在地 バスターミナル合同センター

建立年 平成5年

大きさ <全長>188 cm <碑高>106 cm

参考 下川町史第3巻 996頁ほか

経緯度 44.300878, 142.638681 (付近)



【正面碑文】

鉄道記念碑

※数字を漢数字であらわしています

## 名寄本線の沿革

大正四年

石丸滝蔵・稲田梅次郎・日比滝三郎・末武次郎吉・市村甚助等が建設陳情

六年六月  
八年十月二十日  
十年十月五日

名寄西線として工事を着手  
名寄・下川間開通名寄・下川駅開駅  
興部まで開通・名称を名寄線に改称  
北海道重要幹線の一つとして名寄線  
に函館発

十二年十一月五日  
昭和七年十月一日

網走行き急行が運行される  
名寄線を名寄本線と改称  
石北線全通により函館発網走行は  
名寄本線経由が変更される  
一の橋大火にて、一の橋駅鉄道宿舍  
十四戸類焼

三十七年五月一日

五十年十二月

遠軽・札幌間に急行「紋別」旭川・  
遠軽間に循環準急「旭川」が運転  
SL(蒸気機関車)運行廃止気動車  
(ディーゼルカー)が運行の主流とな  
る

五十五年四月十七日

「日本国有鉄道再建促進特別措置法  
案」国会提により、名寄本線沿線  
市町村が「国鉄名寄本線外地方交通  
線対策協議会」を発足させ、存続運  
動を展開  
名寄本線廃止「さよなら列車」運  
行、以後代替バス運行開始

平成元年四月三十日

先人の労苦を偲び、その偉業に感謝し、次代に  
鉄道の歴史を伝承するとともに、未来への  
希望と郷土下川の繁栄を願い、  
ここに鉄道記念碑を建立する。

平成五年

下川町

# 記念碑 20 開校 80 周年記念碑 (下川小学校)

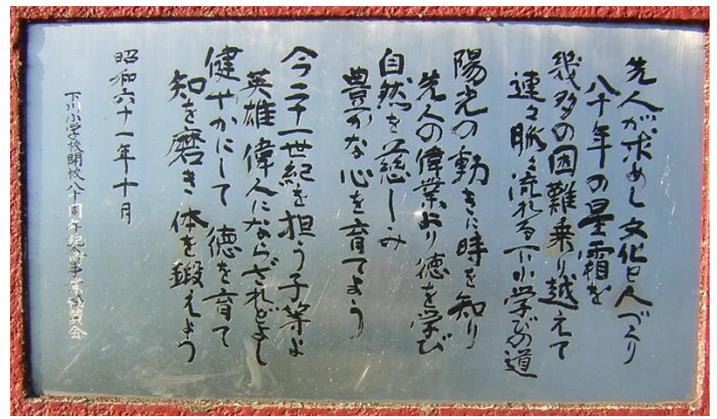
所在地 下川小学校

建立年 昭和 61 年 10 月

大きさ <全長> 73 cm

参考 下川町史第 3 巻 798 頁ほか

経緯度 44.303151, 142.631979 (付近)



## 〔正面碑文〕

先人が求めし文化と人づくり  
八十年の星霜を  
幾多の困難乗り越えて  
連々脈々流れる下小学びの道  
陽光の動きに時を知り  
先人の偉業より徳を学び  
自然を慈しみ  
豊かな心を育てよう

今二十一世紀を担う子等よ  
英雄偉人にならざれどよし  
健やかにして徳を育て  
知を磨き体を鍛えよう

昭和六十一年十月

下川小学校開校八十周年記念事業協賛会

# 記念碑 21 半次郎池

所在地 安原公園

建立年 平成 16 年 7 月

大きさ <全長> 165 cm <碑高> 140 cm

参 考 下川町史第 5 卷 523 頁ほか

経緯度 44.302872, 142.633636 (付近)



**安原半次郎**  
1862~1931

徳島県板野郡松島村（現上板町）で出生し、1904 年下川に入植、開墾に従事。昔故郷で水不足の為餓死する人が出たとき安原伝兵衛なる人が、ため池を掘り村人を救ったという故事を参考に自宅の敷地内に造った池である。

【正面碑文】

半次郎池

安原半次郎 肖像

安原半次郎

1862~1931

徳島県板野郡松島村（現上坂町）で出生し、1904 年下川に入植、開墾に従事。昔故郷で水不足の為餓死する人が出たとき安原伝兵衛なる人が、ため池を掘り村人を救ったという故事を参考に自宅の敷地内に造った池である。

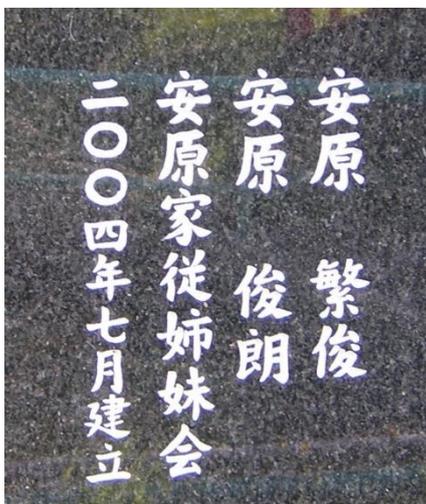
【裏面碑文】

安原繁俊

安原俊朗

安原家従妹妹会

二〇〇四年七月建立





# 記念碑 23 忠魂碑 (頌徳碑)

所在地 桜ヶ丘公園

建立年 昭和 12 年 9 月 10 日

大きさ <全長> cm <碑高> cm

参考 下川町史第 1 巻 1301 頁ほか

経緯度 44.293499, 142.629205 (付近)



## 【正面碑文】

忠魂碑

陸軍大将鈴木莊六書

## 【裏面碑文】

昭和十二年九月十日建立

## 【台座碑文】

日清日露満州志那事変大東亜戦争の英霊がここに眠る。

昭和十二年九月下川村を挙げて建立された忠魂碑は四十七年間の風雪に耐え緑豊かな公園の守神として親しまれて参りましたが、道々下川愛別線の改良工事に伴い、下川遺族会が移転補償を受け、関係各位の協力を得てここに完成した。

## 下川戦没者氏名(略)

### 建設委員

矢内西吉

羽場武義

井田末雄

菊地 猛

椛澤 勇

佐藤良太郎

矢野 秀

猛

施工者 下川遺族会

請負者 金子建設株式会社

工事者 しばた土建

昭和五十九年十月三十日建立

# 記念碑 24 故陸軍歩兵上等兵 勲八等功七級 田中市郎之碑

所在地 上名寄 18 線

建立年

大きさ <全長> cm <碑高> cm

参 考 下川町史第 1 卷 251 頁ほか

経緯度 44.307990, 142.599489 (付近)



【正面碑文】

記念碑

昭和八年十月九日戦死

故陸軍歩兵上等兵 勲八等功七級 田中市郎之碑

混成第十四旅団長 平田重三 書

【裏面碑文】

遺族 田中仁次郎建之



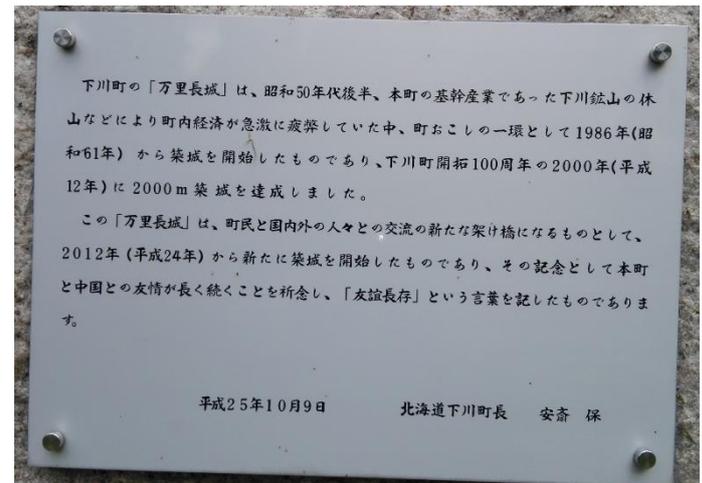
# 記念碑 25 友誼長存 (新たな築城を記念して)

所在地 桜ヶ丘公園 (フレペ側)

建立年 平成 25 年 10 月 9 日

大きさ <全長> cm <碑高> cm

経緯度 44.296044, 142.630184 (付近)



## 【正面碑文】

～新たな築城を記念して～  
万里長城  
友誼長存

中華人民共和国駐札幌総領事 許金平  
北海道下川町町長 安斎保  
2013年10月9日

## 【裏面碑文】

下川町の「万里長城」は、昭和50年代後半、本町の基幹産業であった下川鉦山の休山などにより町内経済が急激に疲弊していた中、町おこしの一環として1986年(昭和61年)から築城を開始したものであり、下川町開拓100周年の2000年(平成12年)に2000m築城を達成しました。

この「万里長城」は、町民と国内外の人々との交流の新たな架け橋になるものとして、2012年(平成24年)から新たに築城を開始したものであり、その記念として本町と中国との友情が長く続くことを祈念し、「友誼長存」という言葉を記したものであります。

平成 25 年 10 月 9 日 北海道下川町長 安斎 保



# 記念碑 27 東宮殿下行啓記念

所在地 上名寄 16 線神社

建立年 大正 11 年 7 月 16 日

大きさ <全長>122 cm <碑高>90 cm

参 考 下川町史第 1 卷 190 頁ほか

経緯度 44.307215, 142.583444 (付近)



## 【正面碑文】

大正十一年七月十六日

東宮殿下行啓記念

【下川町史 第一卷 一九〇頁】

「皇太子殿下の名寄線御通過」

この年【大正十一年】七月北海道訪問の旅に來道せられた皇太子殿下【昭和天皇】は網走方面御視察のため同月十六日この名寄線を通過せられた。当時下川地区民は洋服或いは紋付姿で学校児童と共に小旗を持ち、上名寄・下川・一の橋各駅頭に集り、万歳を連呼して迎え送りました。

【下川町史 第一卷 一八四頁】

十月【大正十年】名寄線【鉄道】が全通した。名寄線は昭和二年石北線開通まで北海道幹線の一つで、「函館発網走行」の急行も通った。当時普通車は貨車と混合が多かったが、急行は客車専用で二等車も連結していた（三等迄あった）

# 記念碑 28 御創祀百年記念碑 (下川神社)

所在地 下川神社

建立年 平成 15 年 9 月吉日

大きさ <全長> cm <碑高> cm

経緯度 44.302229, 142.642764 (付近)



【正面碑文】

御創祀百年記念碑

御祭神 天照皇大神 大物主神 譽田別命  
 例祭日 八月八日  
 旧社格 村社  
 社殿様式 神明造  
 社紋 花菱

由緒記

明治三十七年、二十三線市街に天照皇大神を祀り下川神社とした。明治三十九年、四国の団体が入村し、三の橋地区に大物主神を奉斎し、三の橋神社とした。対象十三年二十四線北一番地(現下川神社用地)に譽田別命を奉斎し、八幡神社とした。昭和十五年一月の村議会で紀元二千六百年記念事業として村社下川神社創立期成会を作り、組織活動を行い三社を合併して下川神社とした。昭和十六年十二月二十日盛大な合祀祭を斎行し多年懸案の下川村としての神社が創立された。昭和二十二年宗教法人となる。昭和四十二年十一月下川神社御造営奉賛会が設立し昭和四十四年七月起工、十二月十四日社殿竣工した。平成四年二月一日御創祀九十年並御大典記念事業奉賛会が設立し、新社務所、大鳥居、境内整備事業を行い、翌年九月二十三日完工、平成十五年九月、御創祀百年を迎え、社殿改修、神楽殿、神輿殿等竣工し、境内地の面目を一新するに至り、記念碑とともに永久に下川町の守護神として鎮座する。

神職 宮司 丸井文樹  
 社等 神輿 (昭和三十三年八月六日奉納)  
 境内外撰末社 三の橋二十五線地神(天照皇大神、大己貴大神、大宮之姫大神、大土主大神)

合併により合祀された歴史をもつ御祭神

班溪神社 天照皇大神 明治三十九年創祀  
 二の橋神社 天照皇大神 明治四十三年創祀  
 桑の沢神社 天照皇大神 大正二年創祀  
 昭和四十五年七月二十六日合祀  
 昭和四十五年七月二十六日合祀  
 下川神社 天照皇大神 昭和十四年十月二十一日創祀  
 昭和四十八年六月十五日合祀  
 下川神社 天照皇大神 昭和十四年十月二十一日創祀  
 昭和四十九年六月十五日合祀  
 下川神社 天照皇大神 昭和十四年十月二十一日創祀  
 昭和四十九年六月十五日合祀  
 下川神社 天照皇大神 昭和十四年十月二十一日創祀  
 昭和四十九年六月十五日合祀